



車イスで街に出ってみました

報告がとっても遅くなってすみません。

毎年恒例、生活福祉系列が3年次「介護福祉基礎」の授業で必ずすること。それは、車いすで街に出てみよう!!!

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できませんでした。今年度は感染防止に注意しながら、実施しました。

生徒は、普段の授業でない内容によるこんでいます。今年は3月中に桜が開花してしまうという、予想外の出来事がありましたが、それでもギリギリ、桜の散りゆく街に出て行くことができました。

心地よい風に吹かれ、座って街を散策できるこの授業、生徒ははじめ喜んでいますが、しかしその喜びも束の間、疲労と恐怖の表情が連続します。そんな、私が楽しいだけの授業内容を考えるわけじゃないですか。疲労と恐怖の表情も盛り込み済み。今回も成功です。

さて、どんなことをしてきたかという、まずは隣のいつもお世話になっている村上市の情報センターへ行き、スロープやエレベータを体験します。



さらに街を車いすで散策します。普段自分たちが何気なく通学している場所が、車いすだとこんなに・・・。

エレベータ内の鏡の意味、分かりますか？



この余裕の表情も最初の内だけ。帰る頃には・・・。

そして、なぜ点字ブロックと一緒に写しているかわかりますか？



学校のある村上は城下町。その影響もあって、学校周辺には最近整備された広くて段差の少ない場所もあれば、昔ながらの場所もたくさん。これらが車いすで生活する人にとってどのように見えるのか？

横断歩道は介助で渡りますが、自操だったらどうなんだろう？



普段何気なく生活している、生活していた場所が、車いすで通るとこんなに怖い、大変？という思いをたくさんしながら、街を進みます。

なぜ、先生に立って見守ってもらっているか。ここは、歩道上でありながら、車いすにとってはとても危険な場所。

車イスが思うように動いてくれない。今は後ろに介助者がいて支えてくれますが、自分だけで出かけたら・・・

駅前の通りです。

狭いので側溝のふたが歩道になっています。でもだいぶ古いものでもあり、車いすで通るにはだいぶ苦労したようです。



今回は、村上駅にもご協力いただき、駅構内に立ち入らせていただきました。駅はバリアフリー化が進み、使いやすくなっています。でも実際に車いすで入ってみると、「もっとこうだったらいいのに」が見えてきます。





街の散策を終え、学校に戻ってきた一コマです。すでに表情は疲れ切っています。

車イスで散策する生徒の皆さんも疲れるのですが、引率する私たちも相当疲れます。

7組の車イスの端から端まで見守らなくてはならず、さらに今回は、まとめ作成のための写真を撮る役もあるので、思いのほか大変でした。

でも、この経験がいつかみなさんの役に立つならそれはそれでいいのかなとおもいます。

最後に、これはエレベータ体験をした帰りなので、さほど疲れていない時に取った記念写真です。村上桜ヶ丘高校のシンボル？桜と赤門を一緒に。マスク姿が時代を反映しています。赤門が残っている県立高校は珍しいとのこと。



このあとの時間、生徒は振り返りを行いました。ただ不便なところ危険なところをあげて終わりではなく、なぜ危険なのか、不便なものは不要なものなのか？車イスでない人にとっては必要なものではないか？など、1面のみをとらえるのではなく、多面的にもものを見る大切さを少しだけ学んでもらいました。

初めにのせた、車イスと点字ブロックが一緒に写っている写真、あの歩道は新しいもので、かなり幅があります。幅広に作ってあるおかげで、〇〇も△△も便利にがかなえられたものの一つです。点字ブロックと車イス、どちらも必要なものですが、時として不便なものになってしまうことがあります。

街には“福祉”を学ぶ教材が、実はたくさんあります。車イスの実習だけに限りません。自分たちが生活する中で？を感じ、どうしたらそれが解消されるか考える。その答えにも100%はないから、その部分のフォローはどうするか？何気ない日常を気にして、多くの人が過ごしやすい街にするにはどうしたらいいのか？この先のこの地域を支える生徒の皆さんに考える力を身に付けてもらえたらいいと考えています。



3年生 家庭科技術検定 上位級取得への挑戦が始まる！

さて、新学期が始まり最高学年のスタートを切った3年生。

生活福祉系列の3年といえば”検定”ですね。2年次よりひとつ上の級に挑戦。練習も始まりました。



食物調理技術検定は2級に挑戦です。「〇歳男子 or 女子の弁当」という課題が出ます。ここから、栄養価など考え、メニューを決めて作る場所までしていくわけです。かなり昨年度よりハードルがあがります。正直内容を聞いて、「できるかな〜？」と思うこともあります。でも、「出来なさそうだからやらない」という消極的な姿勢はNGなので、やるしかない」、それだけです。

その様子ですが、作っているところは撮影できませんでしたが、食材をそろえるところからしなければいけない。しかも一人分。

みなさん、彩りよく、栄養バランスの取れた弁当を作るって、相当なものだと思いませんか。冷凍食品は当然使えません。私には出来ません。でも生徒にはやれるふりして激を飛ばしています。



さて、出来たお弁当を見てみると・・・

まあ、初めての作品にしては上出来なほうかなと思えますが・・・いや、いろいろが・・・、バラン



スが、卵焼きに隙間が、弁当自体がスカスカ・・・課題という大きな山が出来ました。

詰めているときも、「これが入らない」「隙間が出来るけど入れられない」などの訴えがありました。でも、半分にカットして並べると入るとか、仕切りを高くすれば入るとか、単純に解決できるものも結構ありました。

2年次の時もだいぶ練習したはずの卵焼きの注意点も、時間が経ち忘れていたようです。復習と練習の繰り返しになります。



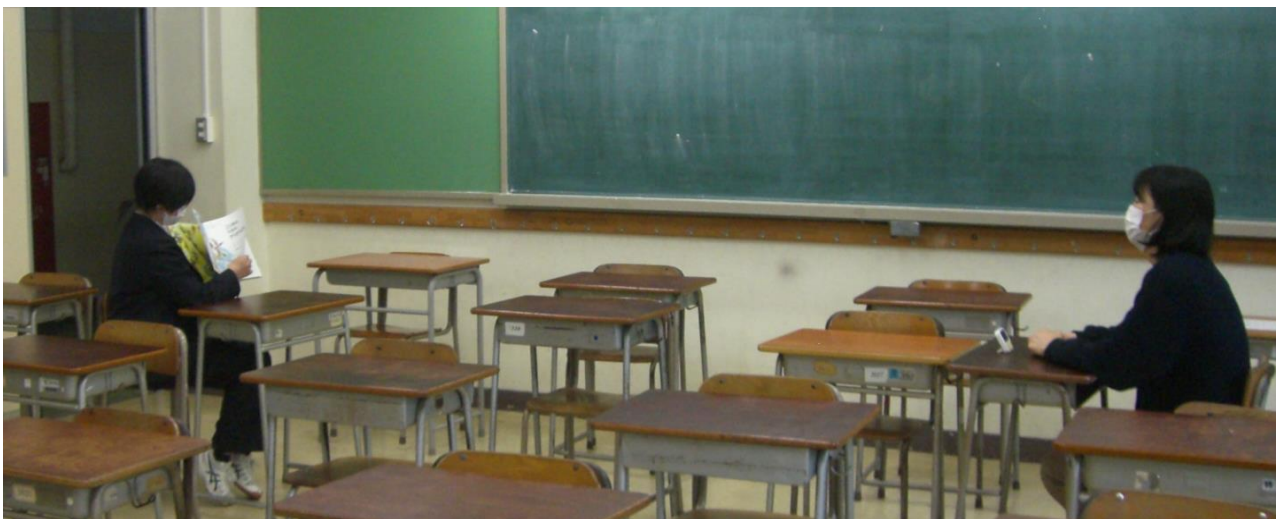
頑張っても合格できないことはあります。それは”試験”である以上仕方のないことです。でも、その過程でさまざまな思いをすることが大切だと思います。嫌な思いも含めて、たくさん経験して欲しいと思います。むしろ失敗して欲しい。今のうちに。失敗にくじけない心、失敗を活かせる人になって欲しいです。

さらに今年度は保育技術検定も上位級を目指します。こちらも目下練習中。絵本の読み聞かせです。絵本を子ども向けに読むってそんなに簡単なことではないのです。絵本の持ち方、ページのめくり方、読み手の姿勢、目線など読み方だけではなく、さまざまなポイントがあります。

正直、保育士になりたいと考えている人は、この検定に合格できるくらいでなくてはだめですね、と私は思います。



ベテラン保育士さんに聞いたのですが、子どもの前で絵本を読むときは下読みを30回はするとのこと。だから子どもたちが話しに引き込まれていくんだな、これがプロなんだなと思いました。



プロの保育士さんでさえ、たくさん練習するのに、たった2～3回練習して上手く出来るなんてないんです。検定に取り組む姿勢として、保育士さん並みの努力をするくらいのつもりで臨んで欲しいです。

遅くなるとは思いますが、進捗状況や検定本番の様子などお知らせしていきたいと思います。

※作成までに時間がかかり、タイムリーな情報ではありません。生徒は今ももっとも上達しているはずで。





3年生 調理実習の仕上げということ・・・



クリスマスが近いということ、検定も終わり調理実習をする機会もあとわずかということで、ちょっと楽しみも入れた調理実習をします。

まずは、クリスマスが近いということもあって、お菓子の家をつくらうということになりました。便利なことにそういうためのキットがもう売っているのですね。

で、説明書通りに作ってあげればそこそこののですが、ここでいつもの癖が出ま

す。説明書をしっかり読まない。考えない。

だから、くっつける役目をする砂糖を溶かしたものが緩すぎてくっつかない。パーツの組み合わせをよく考えないで適当にしようとするから、バランスが崩れてお菓子の家崩壊！！

みなさん結構な苦勞をしていたようです。「家の中にお菓子を入れるんだ！」と言っていたにもかかわらず、屋根を早々に組み立ててくっつけてしまい、お菓子の家を持ち上げてほしいという無理なことを頼む生徒もいました。



自由にお菓子を持ってきて、飾り付けていいのですが、人それぞれ様々な種類を持ってきていました。



けっこう研究して持ってきた人もいましたくほかでも使ってね、その研究心>。

見ていてほぼみなさん共通なのが「アボロ」「マーブルチョコレート」といったところでしょうか？あとは「小枝」。これは屋根にも壁にも使えますね。

まあ、今回は楽しみながら作りましょうということで、今までさんざん緊張を強いてきたので、良いのかなと思います。出来た作品はこんな感じです。





3年生 米粉ピザに挑戦

～新しくなった調理台を使いこなすことができるのか？～

お菓子の家に続いて、今度は米粉ピザとかぼちゃのスープを作りました。さて今回はちょっと気を引き締めて、説明をしっかり聞いておかないとわからなくなりますよ。

米粉をこねるのですが、手早くこねることが求められます。ボールについた粉を残さずくるんでこねていきます。お菓子や麺類を作ったことがある人はわかると思いますが、うまくこねあげていくとボールがきれいになります。計量していますから、たくさんボールのまわりに粉がついてはいけません。



で、「耳たぶくらいの硬さにしましょう」と説明があったのに、「先生この硬さでいいの？」と聞く人が何人も……。説明聞いていましたか？ボールのまわりが残った粉で真白な人も「このくらいでいい？」って「ダメ！」。

今回粉をこねている場面の写真がないのですが、こ

れはこの記事を作成している私も、カメラをおいてこねていたからです。先生の説明に合わせて、結構スピーディーに進めていました。生徒の皆さんがこねる時には見本になるように作っておいたのですが…

さて、ピザの生地ができたら、それに塗るピザソースを作り、トッピングも自由にのせて、あとは焼いて。

ここで問題発生。本校の調理室の調理台が夏休みに入れ替わりました。ガスコンロやオープンも新品になったのですが、そんなに難しい機種になったわけではありません。が、しかし……「どうやって使うの？」の声があちこちであがります。まあ、滅茶苦茶なことをするよりはいいのですが、ちょっとは考えてほしいと思いました。



中には「なんか臭うな」と思っていたら、よく見ないでつまみを回して、グリルに火をつけていて、「火がつかない」と困っていた人もいました。よく見るとつまみのところにしるしがイラストで書いてあるのですが。

あわせて作ったかぼちゃのスープ。ミキサーを使うのですが、牛乳を入れずにかぼちゃだけでミキサーにかけて、「先生みたいにならない??」。しばらくしないと忘れるのでしょうか？

でも最終的においしいピザとスープができて、みんな美味しくいただきました。



地域の方に支えられて～生活福祉系列3年と自由選択「生活支援技術」の一コマ

①ペタンク講習会

1～2回、村上市ペタンク協会の方々から、子どもから高齢者まで、障害の有無にかかわらず楽しめるニュースポーツとして「ペタンク」を教えてくださいたいです。

今年度は前日までの雨の影響で室内コートでの実施になりました(担当者4年目で初です)。

生徒にとっては地域の方々特に高齢者の方々との交流にもなっています。

全くやり方がわからないままスタートしますが、そこは生徒の若さです。あっという間にやり方を覚えます。ただ奥が深い“ペタンク”そう簡単にはうまくはいかないのです。でも、点数の計算方法を教えてもらったりして、ゲームが読めるようになると生徒はこうしようああしようと楽しんでくれます。それを見ているペタンク協会の方々も楽しんでくれます。みんなが笑顔になるひとときです。



②視覚障害者の方の講話



年に1回新発田市在住の視覚障害者の方から盲導犬とともに来ていただき、話を伺っています。私がこの学校に異動する前からですから相当長い期間お世話になっています。今年度も例年通りお世話になりました。生徒は、講師の方がどのような生活をされているかの話を聞き、毎回“意外と普通”という感想を持つようです。そして“盲導犬”にも熱い視線が注がれます。でも、ペットではないので、そこはしっかりわきまえて、でもかまってみたいのをお願いして、ハーネスを少しだけはずしてもらいます。盲導犬もいつもと違う人が集まっているので嬉しそうにしています。

③聴覚障害者の方の講話

年に1回村上市在住の聴覚障害者の方からお話を伺っています。手話通訳の方も一緒に来ていただきます。こちらの講話も生徒は講師の方がどのような生活をされているかの話を聞き、毎回“意外と普通”という感想を持つようです。手話でクイズをしたり、自分の名前の手話を教えていただいたり、時間はあっという間に過ぎていきます。



福祉の授業では、「実際に～する、実際に～聞く」ということがとても大切であると感じます。実際に障害を持つ方から話を聞くことで様々な気付きに出会う。自分の思いと違う答え、コミュニケーションが難しいと思っていても通じた時の喜びなど。しかも高校生という純粋な時期にこそ触れてほしい。だから、実際に触れる、接する機会を大事にしたいと考えています。専門的なことはこれからいくらでも勉強できます。そのきっかけを授業で伝えられるということはとてもありがたいことだと思っています。



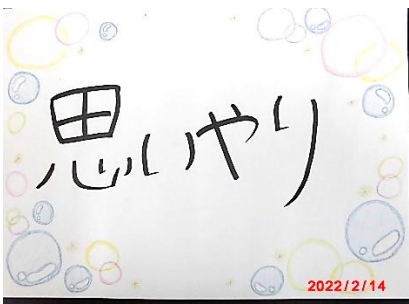

村上桜ヶ丘高校は様々な方々に支えられて、貴重な機会をいただいていると思います。今後もお互い無理のない範囲で、続けていきたいと考えています。



2年間の“福祉”の学びを一言で表してみました。

さて、とうとう系列の授業も終わりました。卒業式も終わり、もう皆さんはそれぞれの進路に向けてその歩みを進めています。

“福祉”の最後の授業で、2年間の学びを一言でまとめる作業をしました。2019(平成31)年度入学の生活福祉系列14名の“福祉”の集大成です。

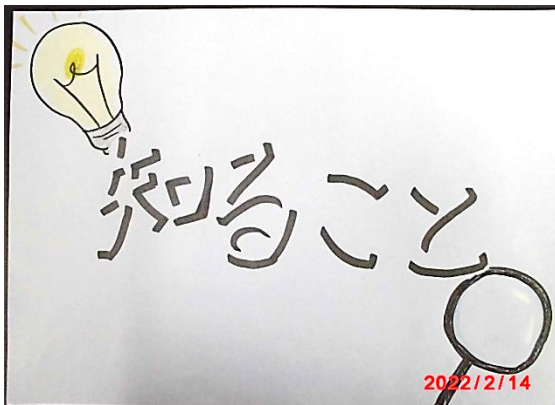
	<p>私は介護福祉基礎を勉強して、相手の気持ちをよく考え行動することが大切だと思いました。</p> <p>なので、一人一人が人間らしく生きていくために平等の心を持って、ともに助け合い、支え合うことが大切だと思っていたのでこの言葉を選びました。福祉とはお互いが笑顔になるものだと思います。</p>
	<p>私が2年間学んだ「ふくし」は「助け合い」です。今までを振り返ると、実技をするときはいつもペアになって行い、自分ができないことがあったらペアの子が助けるし、ペアの子ができないことがあったら自分が助けていたので、ふくしとは「助け合い」だと思います。</p> <p>福祉以外でも学校や街中で助け合っている所をよく見かけるので、どの場面でも「助け合い」は大切だと思いました。</p>
	<p>私が学んだ福祉は「思いやり」です。</p> <p>福祉の中で一番思いやりが大切だと思います。人と人をつなぐためには、思いやりの気持ちがないと成り立ちません。もし困っている人がいたらあなたは助けますか？助けませんか？思いやりの気持ちがあったら助けると思います。困っている人も良い気持ちになり、助けた方もうれしい気持ちになり、心が暖まります。なので、思いやりの心を持つことが大切だと思います。</p>
	<p>「ふくし」というものは「思いやりの連鎖」だと思います。もし誰かが困っていたら助けますよね。その助ける行為、そのこと自体が「思いやり」であり、「ふくし」なのではないかと思います。そしてその助けられた人がまた違う誰かを助ける。そうやって思いやりの連鎖は続いていきます。普段なにげないところで「福祉」というものをみなさんはやっているのかもしれないね。</p>



私が2年間学んだ「ふくし」は「思いやり」です。

相手のことを思って、自分に何ができるかや相手がどうしてほしいかなどを考えて行動することが「福祉」の様々な場面で大切だと思いました。

このように優しさをもって相手と接することは「思いやり」だと思ったので、「ふくし」は「思いやり」だと思います。



ふくしはいろいろなことがあります。そのどれもが全部知識を得るところから始まると思います。例えば介護でいうと清拭。私たちはどこからどのようにして拭くのだという手順を“知って”から実行しました。

他にも視覚障害を持つ方の話を聞いてどのように生きてきたのかを“知る”ことができました。点字や手話なども私たちは学び、“知る”ことができました。私はこのすべてに知ることが含まれていることに気づき、ふくしとは知ることだと思いました。人を支える前にその人を知ること。それが福祉に必要なものだと思います。



私は福祉は公平なものだと思う。利用者それぞれの気持ちを考慮して、一人一人違う対応をするため、平等ではなく公平なものだと思ったから。また、バリアフリーなどまだ完璧に公平になっていない部分もこれから公平になっていけば良いなという願いを込めてこうした。



私の考えたふくしは平等です。

要介護者と関わる前は、最初からこの人はこうだからできないとか、障害者だからしなくてもいいという、決めつけや偏見が多いと思います。

でもそれはただの決めつけであって、思っていたこととちがったなや、やってみたらできたなどあると思います。だから「平等」の心をもって、まずは一人の人としていつもと同じように接する、偏見、差別をなくすことで、その先の介助、その人との関係がよりよいものになっていくと思うので「平等」ということばにしました。



「ふくし」とはいわば人と人との関わりや支え合いからなる「繋がり」であり、協力でもあるから「繋がり」とは、人と人との関わり合いや連携といったニュアンスの言葉であり、2年間学んだ「ふくし」で、人と人とのかかわりの大切さを知ったので、福祉では欠かせない「繋がり」という言葉にしました。



私は福祉がなにかと考えた時「ゆとりを持って傾聴しみんなで支え合う」と考えます。

私たちが初めに傾聴とはどんなことか習った時、耳を相手に傾けて話を聞くことだと教えてもらいました。心にゆとりをもてば相手の気持ちを知ることができる時間が増えます。何かお手伝いする時も、今、何をしてほしいのか聞くことができます。

ですが、一人ですべてやろうとするといつかは傾聴できなくなります。ですから、みんなで協力して、サポートをする人、サポートを必要としている人同士だけでなく、サポートする人同士でも支え合うことが大切なんじゃないかと思います。



私が考える福祉とは支え合いです。福祉について学ぶ前は、介護者の方が支えている側だと思っていました。でも福祉を深く学んでいき、要介護者の方から支えられることもあると学びました。

生活福祉系列で2年間学んできて、福祉は自分が支えるだけではなく、時には支えられていることがあると学びました。

なのでふくしは支え合いだと思いました。



私が思うに支え合いを必要とするのは、高齢者に限ったことではないと思います。介護をしている家族や障害の方、子育てに悩む方々など様々な人が手助けを必要としています。

なのでこれからは「支え合いの街づくり」が必要になってくると思います。例えばゴミ出しのお手伝いや一緒に買い物することでお互い困っていたら助け合い、支え合うことが、福祉なんじゃないかなと思います。



私は人と人が支え合うことで福祉が生まれると思います。困っている人を助けるその行動が福祉だと思います。

人は支えてもらわなければ生きていくことができないと思います。

私は生活福祉系列で利用者さんを介護して支えたり、ときには利用者さんと協力をして支え合うことが大切ということ学びました。

支えてもらったらずえ返すのではなく、自分から積極的に手助けすることが大切だなと思い、この言葉を選びました。



福祉の授業を通して、日本中、世界中にはさまざまな人がいることが分かりました。障害を持っている人、いろいろな問題を抱えた人がいます。そのせいで、差別され、傷ついたり、自分らしく生きられない人たちがたくさんいると思います。たとえ障害があっても、普通の人と同じようにお仕事をしたり、学んだりすれば、障害の人々も住みやすい社会になると感じました。

これから社会に出るとたくさんの人と関わることが増えると思います。いろいろな問題を抱えている人と出会うかもしれません。その時は差別をせず、一人の人として接して助け合っていきたいです。

縁あって生活福祉系列で学んだ2年間。14名がお互いに切磋琢磨し、さまざまなことを身につけたと思います。

皆さんの学びの後ろには、先生方の丁寧な指導もあったし、地域の方々の様々な支えがあって成り立っているものです。

自分たちの努力をまずは褒めていいと思います。ただ自分一人では成しえなかったことが、14名というちょうどいい感じの人数でできたことは確かです。

2年間の村上桜ヶ丘高校生活福祉系列での学びを支えてくれたすべての方々に感謝しつつ、いい思い出にしてくれたらいいなと思います。

さて、この「生活福祉系列だより」では、ごく当たり前の授業風景を取り上げてきました。どこでもやっているような当たり前の日常。そこにあえてスポットを当ててみると、実はいろいろなことが見えてきます。

あえて特別なことをしなくても（できなくても）、いつもしていることに大きな学びがあります。それを積み重ねることで大きな成長につながります。

今回、授業の関係がたまたまうまくいきて「生活福祉系列だより」を何度か発行できました。実際は写真を撮ることすら難しい現状があります。学校の活動をアピールしましょうなんて言われますが、どんな題材を流せばいいのか？普通のことしかしていないからアピールするなんて・・・という声を聞きます。この程度の紹介でもいいのではないのでしょうか？

次年度以降もどの程度可能か読めませんが、発信できればと思います。